

# 漁海況月報

平成27年5月8日

愛知県水産試験場 漁業生産研究所

## 1 海況予測

### (1) 現況

黒潮は、C型流路となっています。

冷水渦の中心は野島崎沖にあり、遠州灘沖には時計まわりの流れを伴う暖水渦があつて、渥美外海に熊野灘から暖水が流入しています。

### (2) 予想

野島崎沖の冷水渦は規模が縮小しており、流路は八丈島の南を迂回するC型から八丈島の北を通るN型に移行しつつあります。それに伴って、徐々に熊野灘からの暖水の流入は弱くなるものと予測されます。

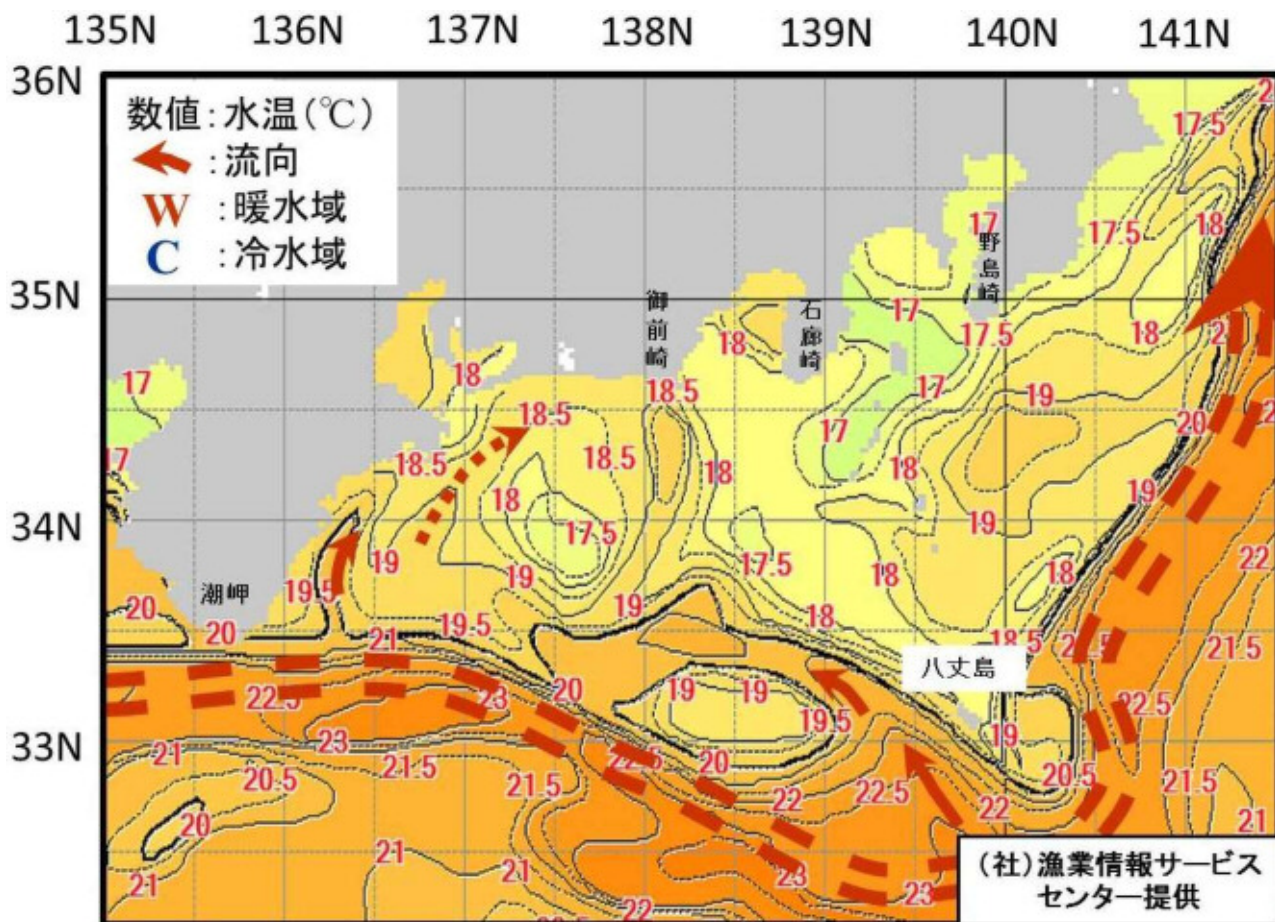


図1 海況の現況[2015年5月6日]

## 2 イカナゴ

5月1日に外海のデヤマ海域において、イカナゴ夏眠魚の調査（空釣り）を実施しました。

調査海域の底層水温は17℃台で、夏眠魚はまだ少なく、今後、水温の上昇とともに夏眠も本格化していくものと思われます。

年齢の割合は、今年の親であった1歳魚以上が14%、今年生まれの0歳魚が86%となっていました。

次回は、5月下旬の調査を予定しています。

表1 空釣り調査結果（愛知水試）

	イカナゴ夏眠魚 採集量（尾/km）									
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
2005	103		1,710							
2006				2,535						
2007		1,128	2,180		1,682		1,039		544	
2008	77	45	49			121		68	30	
2009		435	438				740		501	
2010		792	3,306				1,333		1,589	
2011		964	2,910				425		518	
2012	230	378		1,721			1,869		1,324	
2013	462	1,268	2,597						1,690	
2014	146	1,670	(659)* <sup>1</sup>	110			49		116	
<b>2015</b>	<b>119</b> * <sup>2</sup>									

\*1 2014年6月は三重水研の調査結果

\*2 2015年4月の調査日は、5月1日

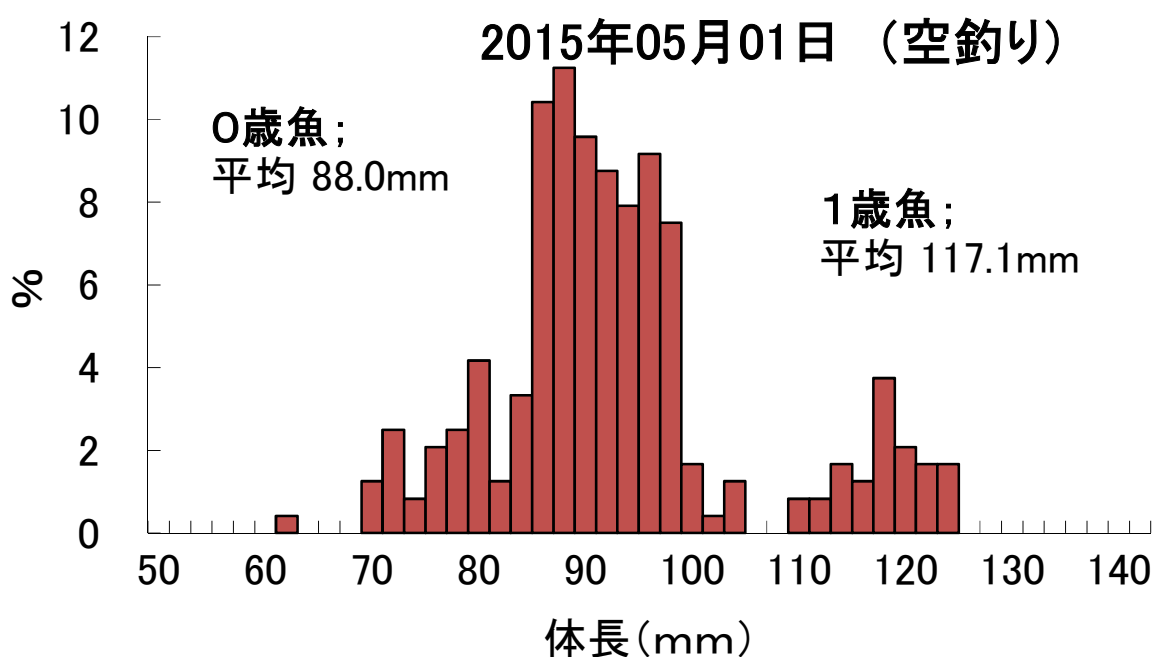


図2 調査結果（体長組成）

### 3 イワシ類

今期も、昨年同様、春期の渥美外海へのシラス来遊が断続的にありました。このため、県内の船びき網漁業では、3月末のイカナゴ漁終了後、間をおかずにシラス漁が始まったことから、長い休みを挟むことなく操業が続いています。

春季に湾内へ来遊するシラス（カタクチシラス、マイワシシラス）は、その後の成長を通じて、本県におけるその年のイワシ漁業に大きな影響を及ぼします。

船びき網漁業者がイカナゴを保護するため、現在も継続して設置している禁漁区（伊勢湾・三河湾全域）は、これらイワシ類の春季来遊群を保護している面もあるといえます。

#### （1）シラス

4月における県内の漁獲量は約980トンで、同じ時期としては、昨年、平年を上回る水揚げとなりました。漁場は渥美外海で、県境付近まで広く操業されていたようです。単価はカゴ（約20kg）あたり月平均で12,421円となり、昨年同月（11,170円）を上回っています。

5月上旬現在、順調な水揚げが続いています。

表2 愛知県シラス類漁獲量

（単位：トン）

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2010	0	0	0	7	440	753	256	220	782	1642	365	39	4,503
2011	1	0	0	169	583	1,168	1,219	517	677	547	478	279	5,637
2012	9	0	0	110	444	832	1,383	1,167	679	1142	496	181	6,443
2013	4	0	0	723	1,667	374	250	295	1,248	322	353	127	5,363
2014	0	0	0	594	2,828	527	18	891	672	1400	592	236	7,758
2015	0	0	6	980									986
10年平均	5	0	7	409	1,357	971	644	654	647	676	381	147	5,900

外海におけるカタクチイワシの産卵水準は、3月から豊富な産卵が認められています。また、黒潮系の暖水の流入は緩やかに続いており、海況が急激に変化する可能性は低いと考えられます。このため、シラスの漁模様は、5月中は現在の漁獲水準が続くものと考えられます。

(2) マイワシ

県内では、3月以降マイワシのまとまった漁獲はありません。

3～5月上旬に漁獲されたシラスは、カタクチシラスを主体として、マイワシシラスやウルメシラスの混入がみられます。混入割合は、マイワシシラスが17～64%、ウルメシラスが0～5.4%でした。

マイワシシラスの混入割合が昨年同様、高水準となっており、湾内へも来遊していることから、夏秋季のマイワシ漁が期待されます。

表3 愛知県マイワシ漁獲量

(単位：トン)

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2010	0	0	0	0	0	2	288	653	675	247	17	0	1,881
2011	0	0	1	0	2	29	361	1,223	1,091	264	68	4	3,044
2012	0	0	0	0	0	72	49	499	214	52	0	0	886
2013	0	0	0	0	1	8	107	577	295	3	0	0	992
2014	0	0	0	<1	0	104	269	1,547	1,334	617	422	180	4,474
2015	76	78	0	0									154
10年平均	0	1	0	0	1	32	167	568	423	165	72	24	1,006

(3) カタクチイワシ (成魚・未成魚)

4月の県内におけるカタクチイワシの水揚げは、131トンで、中旬にぱっち網により漁獲されていました。しかし、成魚・未成魚の来遊量が少ないのに対し、シラスの来遊量が比較的豊富なため、2日間の操業のみでシラス漁へ転換しています。

現在漁獲されているシラスは、漁業者の情報によれば、伊勢湾にも進入している模様です。今後、これらが成長することにより、夏秋季にはカタクチイワシ未成魚として漁獲対象に加わっていくことが期待されます。

表4 愛知県カタクチイワシ漁獲量

(単位：トン)

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2010	0	0	0	0	1	1,529	4,844	4,819	1,775	590	1,497	973	16,028
2011	37	92	116	561	768	1,945	3,610	4,935	572	159	294	401	13,491
2012	46	0	0	260	1,471	1,792	1,824	3,704	2,197	483	851	354	12,983
2013	0	0	0	0	803	2,680	4,794	5,382	2,382	1,082	2,811	1,768	21,702
2014	446	0	0	655	269	2,864	5,389	3,742	3,009	2,609	1,971	703	21,657
2015	231	226	0	131									588
10年平均	61	25	12	214	738	1,861	3,926	4,091	2,398	1,526	1,312	737	16,899